

平成 25 年度職業能力開発審議会議事録

日 時：平成 25 年 11 月 6 日（水）

午後 2 時から 4 時

場 所：県庁本館 12 階第 5 会議室

平成 25 年度香川県職業能力開発審議会議事録（要点筆記）

1. 会議の日時及び場所

日 時 : 平成 25 年 11 月 6 日（金） 午後 2 時から 4 時
場 所 : 県庁本館 12 階第 5 会議室

2. 出席委員

学識経験者委員

清國祐二委員、池田弘子委員、稲葉武彦委員、木原茂文委員、
丸田温子委員

事業主代表委員

天野裕子委員、北村明彦委員、森川和子委員、森茂委員

労働者代表委員

黒川志津委員、西川啓二委員、山健二委員、行成リエ委員、

以上、委員 15 人中 13 人の出席につき、香川県職業能力開発審議会条例（以下「条例」という。）第 5 条第 2 項に定める「2 分の 1 以上出席」の会議成立要件を充足

3. 議事

< 予定議事 >

- (1) 会長の選任等について
- (2) 高等技術学校における公共職業訓練取組状況等について
- (3) 高等技術学校における訓練内容の一部見直しについて
- (4) 第 9 次香川県職業能力開発計画の目標達成度評価について
- (5) その他

<議 事 録>

(1) 会長の選任等について

- 会長選任前につき、事務局が進行し、条例第4条第2項に基づく会長選任について委員からの意見を求めた。

(事務局)

条例第4条第2項で、「会長は、学識経験者の中から委員が選挙する」となっているが、従来どおり、委員の間での互選により決定することの是非について諮ったところ、異議なく、互選により選任することとなった。

次に、会長選任についての意見を求めたところ、池田弘子委員から、前期会長の清國委員にお願いしたいとの意見が出され、委員に諮ったところ、異議なく、清國委員が会長に選任された。

清國委員が会長(議長)席に着き、以後、議長を務める。

- 続いて、会長就任あいさつの後、議事録署名人に森茂委員と黒川志津委員を指名した。

(2) 高等技術学校における公共職業訓練取組状況等について

- 議長から、事務局に説明を指示した。

(事務局)

配布資料に基づき説明。

①平成25年度取組状況

- ・施設内訓練・委託訓練・在職者訓練の概要
- ・施設内訓練については、昨年度同様の定員で実施していること。

②平成24年度実施結果など説明

- ・近年の就職率の平均について、施設内訓練は76%、委託訓練は70%となっている。
- ・カレッジコースについては、就職率がほぼ100%である。
- ・24年度募集のキャドシステム科と25年度募集の建築システム科において、若干応募者が減った。
- ・テクニカルコースについては、修了率が低く、応募者も減少している。
- ・アビリティコースについては、情報ビジネス科とデザイン科の応募者が多く、機械加工科と住宅建築科の応募者が少ない状況となっている。

- ・委託訓練は、OA 関係の応募が多い状況となっている。
- ・民間委託の障害者訓練については、OA 事務科の就職率は低く、実践能力習得コースの就職率は高い傾向がある。
- ・施設内訓練の離転職者対象のコースについては、介護サービス科、デザイン科、情報ビジネス科で女性の比率が高くなっている。
- ・委託訓練の離転職者対象のコースについては、OA 関係、介護関係の訓練科で施設内訓練同様、女性の比率が高くなっている。
- ・また、年齢別については、情報ビジネスとデザイン科に若い離転職者が多くなっている。逆に造園科、住宅リフォーム科、ビル設備管理科は、年齢層が高くなっている。

③平成 24 年度 PR 施策実施状況

- ・学校祭・オープンキャンパスなどを実施し、学校の PR を実施している。
- ・指導員の高校訪問による募集活動を実施している。
- ・広報媒体も活用し、パンフレット等の印刷物も県内各所に配布している。

●議長から、委員に、事務局の説明に対する質疑を求めた。

(委 員)

職業訓練で、応募者が多いのに定員を割っているがどのようなものか。

(事務局)

適性検査と面接の選考試験を実施し、総合的な判断で入校者を決定していること、また入校決定後の辞退などの理由から応募者が多くても定員未満となることがある。

(委 員)

県において、入校率など訓練科の必要性の水準となる数値などあれば教えていただきたい。

(事務局)

水準となる数値はないが、定員の充足率や就職率など訓練科の内容を見直し検討することは実施している。

(委 員)

カレッジコースの授業料については、何を根拠に決定しているのか。

(事務局)

高等学校の授業料と同額となっている。

(委員)

40歳未満の求職者においても、カレッジコースにおいては同額の授業料が必要なのか。

(事務局)

必要である。

(委員)

無料と有料コースの訓練の違いはあるのか。

(事務局)

他県の状況も踏まえ、より良い訓練を実施するために必要である経費を負担してもらうため、21年度からカレッジコースは授業料を徴収しており、訓練生に必要な訓練経費として還元している。

(委員)

他県の職業訓練校の状況はどのようなものか。

(事務局)

厚労省がとりまとめた情報では、各県でも若年者コースの就職率は高く、離転職者訓練については、年齢も高いということで就職率は低く、他県でも似通った状況である。

(3) 高等技術学校における訓練内容の一部見直しについて

●議長から、事務局に説明を指示した。

(事務局)

配布資料に基づき説明。

昨年12月に開催した職業訓練見直し検討委員会において検討した。

① 介護サービス科については、平成23年度介護福祉士法の規則改正により、以前より実施していた介護職員基礎研修課程が24年度末で廃止されることにより、本年4月から、介護職員初任者研修課程の修了資格を得られる内容に加え、介護の実技やその他の就職に結びつきやすい内容を充実させたものに見直し、訓練を実施している。

② キャドシステム科については、企業ニーズや求職者ニーズに合った訓練

内容に見直し、機械製図や設計に重点を置いたものから、機械加工や製造に重点を置いた内容に変更し、科名も「機械システム科」に名称を変更し、平成26年4月から訓練を開始する予定である。

③ 建築システム科については、企業ニーズや求職者ニーズに合った訓練内容に見直し、建築設計に重点を置いたものから、建築施工に重点を置いたもの、鉄筋コンクリートや型枠施工などを導入した内容に変更し、平成26年4月から訓練を開始する予定である。

今回の見直しを実施した3つの訓練科においては、香川労働局発表の9月時点の有効求人倍率が高く人手不足の状況となっている。

(4) 第9次香川県職業能力開発計画の目標達成度評価について

① 項目別数値目標（指標）に対する結果数値（23年度・24年度）

平成27年度までに達成すべき目標ということで、13項目の内9項目において、高等技術学校が実施主体となるもので、修了生の就職率と民間教育訓練機関の企画提案の延べ提出件数が目標値を上回っている。

●議長から、委員に、事務局の説明に対する質疑を求めた。

(委員)

キャドシステム科を「機械システム科」と名称変更するが、機械システム科は範囲が広く、金属加工科とか機械加工科のほうが訓練内容からあっているように思うがいかがか。

(事務局)

機械加工科の名称は、丸亀校舎にあり、区別するためにそれに近い名称は避けた経緯がある。

(委員)

地域職業訓練センターは一般研修でも貸し出し可能であるか。

(事務局)

貸し出し可能である。

(委員)

丸亀校の近くに事業所があるが技術学校祭が実施されることを後で知った。PR活動が少なかったのでは。

(事務局)

近隣の小中学校や、広報誌などでPR活動はしたが、近所にチラシの配布は実施しなかった。結果的に夏休みということもあり、小学生の参加が多かった。

(委員)

就職率や入校率などの具体的な数値に基づいて、訓練科目を見直すこともよいが、見直しに即対応するのは難しいと考えている。訓練科目の見直しに係る指導員の準備や必要な知識と技能、また訓練カリキュラムをどのように構築、対応しているのか。

(事務局)

見直しなどがあれば、技術学校で、国の訓練基準で定められているカリキュラムを参考にどのように訓練を実施するか、また必要な機械や材料などについて、関係職種の指導員が協議し、指導できない分野があれば部外講師での対応など、訓練科目の見直しには時間がかかるのが現状である。

(委員)

キャドシステム科の見直しについて、普通旋盤の技能検定の取得を目指すとなっているが、数値制御工作機械の訓練を重点にすれば良いのではないか。

(事務局)

汎用の工作機械を扱い、基礎的な技能の習得及び技能検定の資格を目指す応用的な技能を習得することにより、数値制御工作機械を含めた応用的な技術者を育成することを目的としている。

(委員)

職場定着の促進ということで、長期的な就業支援はどのようにしているか。また、把握をしているのか。

(事務局)

職場定着関係のデータはない。現在は、就職すれば職場適応指導以上は追いかけていない。データを取るとなれば、そのような体制を構築しなければならない。

(委員)

応募者が多い訓練科の選考にもれた希望者は次の入校に申し込んでくるのか。若しくは、他の科の併願をすることも可能なのか。

(事務局)

訓練期間が1年以上のコースについては、1年待って申し込む人は少ない。ただ、3ヶ月コースの訓練については、他に似たような訓練に併願している可能性は高い。

(委員)

技術学校の訓練カリキュラムに就職指導はあるか。

(事務局)

各科においてマナー講習や面接対応などの就職指導がある。

(委員)

時代の変化の中で、指導内容の充実など職業訓練指導員のスキルアップはどのようにしているのか。

(事務局)

職業能力開発総合大学校などの、指導員研修などに参加し啓発を行っている。

(委員)

最近の若者は、表面的な付き合いが増え、技能はあってもコミュニケーション能力が乏しくなっている。就職が決定しても、職場の人間関係に馴染めず早期に退職する若者が増えてきている。

(委員)

最近、コミュニケーション能力を数値化しようと見える化に取り組む動きになっている。

(委員)

イギリスでは、カリキュラムでドラマの授業があり、表現力と協調性を高める訓練を実施している学校が多い。対人能力を高める訓練を行っていくのもこれからは必要になっていくのではないだろうか。

●議長から委員に対しその他の意見等を求めたが、意見等はなく、議事は終了した。